

Title	漸次的な変化を表す副詞について： 「だんだん（と／に）」「どんどん（と）」「ますます」 「徐々に」「次第に」を中心に
Sub Title	
Author	洪, 揚 (Kō, Yō)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2019
Jtitle	日本語と日本語教育 No.47 (2019. 3) ,p.86- 86
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20190300-0086

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

〔大学院文学研究科修士論文〕

漸次的な変化を表す副詞について
—「だんだん(と／に)」「どンドン(と)」「ますます」
「徐々に」「次第に」を中心に

洪 揚

本研究は時間の中における事態の進み方や漸次的な変化を表す副詞のうち、「だんだん」「ますます」「どンドン」「徐々に」「次第に」を中心に、この五つの副詞それぞれの被修飾部分における特徴及び五つの副詞の間における共通点と相違点を見出すことを目的とし、考察を進めた。

まず、先行研究において、「進展副詞」と「進展表現」について概観した。それによって本研究では、先行研究にならい、「進展」という語を使用するが、プラスマイナスのイメージなしで、漸次的な変化の意味を表す語として「進展」を用いることと、進展表現には「質的な進展表現」と「量的な進展表現」二つの性質に分れると考えた。

次に、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)から採取した用例を利用して、五つの進展副詞にかかっている被修飾部分の特徴をそれぞれまとめ、類似している進展副詞を「意味の相違」と「文体の相違」二つの観点から分析を行った。

結論として、五つの副詞の被修飾部分において共通点としては、「～ていく」「～てくる」等のテ形補助動詞と共起しやすいということと、変化を表す状態動詞「なる」が現れる場合、アスペクトがなくても文が成り立つところである。すなわち、被修飾部分において、状態の変化を表す語であれば五つの副詞すべて共起できる。

相違点としては、五つの副詞ともテ形補助動詞と共起しやすいと言っても、「～てください」と共起できるのは「どンドン」と「徐々に」のみである。状態の変化を表す語と共起する「だんだん」と「次第に」は文体的な特徴以外、一般的に同義として取り扱うが、「だんだん」が段階的に変化していくというプロセス(過程性)にフォーカスを置いているのに対して、「次第に」は変化する(した)そのこと(点)にフォーカスを置いている。そして、「徐々に(は)あるが」という表現を用いることが見つかったため、「徐々に」が変化のプロセスでも変化する(した)その瞬間でもなく、進行する様子がおもむろにゆっくりしていることのみでフォーカスを置いている。また、「だんだん」と「ますます」は状態の変化を表す語と共起できるということが共通しているが、「だんだん」を用いる際の変化は変化前と変化後の状態が正反対で、AからAではない状態への変化である。それに対して、「ますます」を用いる際の変化は変化前と変化後が同一状態で、その二つの状態を比べることにより、変化後は変化前よりさらに深まったというニュアンスがあると思われる。

文体の相違について、「だんだん」と「どンドン」は口語的な言い方で、「ますます」と「次第に」は中立で、「徐々に」は比較的文章語に傾いているということが確認できた。